

02

BOOK GUIDE

出雲地域の本



出雲地域は、出雲平野の中央にあり、出雲市の
中核として、国道9号出雲バイパス、出雲市駅連続
立体交差、斐伊川神戸川放水路などの大型プロ
ジェクトを進めるなど、都市基盤整備が急速に整
いつつあります。特に、医療分野においては、島根
大学医学部をはじめ、島根県立大学短期大学部
(出雲キャンパス)、島根県立中央病院などが集積
し、全国の中小都市のなかでは最高水準にありま
す。

また、吹奏楽や合唱などの芸術・音楽の振興
をはじめ、出雲全日本大学選抜駅伝競走(出雲神
伝)の開催や出雲ドームの幅広い活用など、特色
ある市民活動を展開しています。

さらに、西谷墳墓群や今市大念寺古墳などの重
要な古代遺跡が密集していますので、古代文化の
まちとしても全国的にも注目を集めています。

02

出雲地域の本



BOOK GUIDE

地域全体

●いづもしさんじゅうねんし

出雲市三十年誌

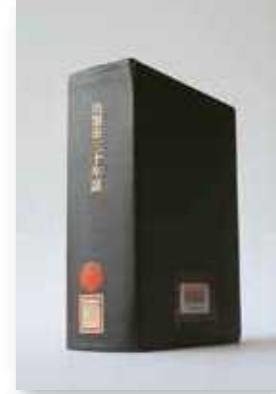
発行者 出雲市役所

出版年 昭和48年（1973）

歴

昭和46年に市制施行30周年を迎えた出雲市が、記念事業のひとつとして発刊したものです。

本書では、昭和16年の出雲市発足以来、戦中・戦後の混乱期からの脱却、隣接地域との編入合併、経済の高度成長など、激動の出雲市の発展の歴史を克明に記録したもので



なお出雲市は、10年を単位に綿密に記録を残しておくという市政の方針により、その後の10年ごとに『四十年誌』、『五十年誌』、『六十年誌』を刊行し、発展する出雲市の姿を集約して収録しています。

●しせいろくじゅうさんねんのあゆみ

市制63年の歩み

著者名 山陰中央新報社 編

発行者 島根県出雲市

出版年 平成16年（2004）

写 歴

2市4町合併による出雲市制最終年にあたり、出雲市63年の市制の歩みを顕彰するための記念写真集です。

本書は、第1章「出雲市の誕生」から第13章「心豊かな21世紀拠点都市へ」まで、項目別にまとめた多くの懐かしい貴重な写真（解説付き）を主体に、新聞記事も盛り込みながら綴ったもので、戦後の発展する出雲市の移り変わりをわかりやすく理解できる一冊といえます。また巻末には、資料として、出雲市の沿革、歴代市長、歴代議長について記載されています。

● いともしこうらん

出雲市勢要覧 昭和17年版

発行者 出雲市役所

出版年 昭和17年（1942）

社



出雲市勢の概要についてまとめた要覧です。地誌、沿革のあとに、土地、戸口、教育、社会教育、社寺及宗教、警防、衛生、警察、生産物、農業・畜産、水産、工産物、商業、運輸交通、通信、財政、官公署及団体、議会の18項目について記載されています。

また巻末には、「先賢之部」として大梶七兵衛翁ほか7名をあげ顕彰し、「特産之部」として萬祥山焼と出雲團扇、「名勝旧跡」として来坂神社ほか10カ所、「名所之部」として偕和園を紹介しています。

わずか54頁の小冊子ですが、出雲市の概要を知るために格好の行政刊行物といえます。

● おもいでとひやく

想い出と飛躍

著者名 出雲市制施行50周年記念写真集編集委員会 編

発行者 出雲市制施行50周年記念写真集出版会

出版年 平成4年（1992）

写歴



昭和16年の出雲市誕生から50周年を記念して発刊した写真集です。

本書の編集にあたっては、市制施行100周年を迎える将来の市民にも読まれる本、家庭団欒のなかで親子の語り合いの場をつくりだす本、生活の匂いがする本にしたいとの方針のもとに、「空から見た出雲市」、「出雲の古代ロマンを訪ねて」、「21世紀を担う少年たち」など、17項目にわけ、2万枚を超える写真の中から670枚を厳選して掲載しています。また巻末には、人口などの市勢の変遷、出雲市略年表を付けています。

● いざもしきかいし

出雲市議会史

著者名 出雲市議会史編集委員会 編

発行者 出雲市議会史編纂委員会

出版年 平成13年(2001)

社

出雲市議会60周年、また21世紀を迎えるにあたり発刊された議会史です。

本書はまず、第1編「出雲市制施行と出雲市議会の発足」で、出雲市議会の誕生と経緯を記したのち、これまで議会がかかわってきた斐伊川・神戸川治水問題や企業誘致、大学設置問題、社会福祉、環境問題、水道整備問題、公共交通、国道問題、教育問題などの大きな問題に対する議会の取り組みを述べ、また第2編では、第1期市議会から第15期市議会までの期別の動きを追っています。さらに第17章では、随想集として53名の市議会議員経験者からの寄稿を掲載して、1,000頁をこえる大冊を締めくくっています。

● いざもしょこううはってんし

出雲市商工発展誌

著者名 記念誌編纂委員会 編著

発行者 出雲商工会議所 出版年 昭和59年(1984)

産

昭和54年に完成した新しい商工会館建設の記念事業の一環として発刊された記念誌です。

本書は、単に出雲商工会議所の沿革史だけではなく、戦後の混乱期を経て昭和の高度経済成長による出雲市の商工業の発展過程をたどった大著です。多くの写真や図版などを駆使しており、できるだけ読みやすくて親しみやすいことを念頭に編集されています。

また、明治・大正・昭和にわたる商店街の変遷や市内80余点における今と昔の街並み写真での比較は、ただ単に懐かしいだけではなく、移り行く歴史の生き証人としての資料的な価値も十分にある企画といえます。

● みちをたずねて

道を訪ねて

著者名 多根令己 発行者 出雲市教育委員会

出版年 平成4年(1992)

歴

出雲新聞に連載したものの中から、出雲市に関連する記事を厳選してまとめたものです。

本書では、55項目を、北部地域・中央部地域・東部地域・西部地域の4地域に区分し、各地域の名勝・史跡・寺社仏閣・自然などの風物を紹介しています。

出雲地域の隅々まで細かく足を運ぶ、著者ならではの鋭い観察力による詳細な記述がみられ、出雲を再発見するには絶好の一冊といえます。

なお本書は、出雲市民文庫第10巻として発刊されたものです。

● ふるさとさいはつけん

ふるさと再発見

著者名 アメニティ・タウン市民研究会 編

発行者 出雲21世紀市民委員会

出版年 昭和61年(1986)

歴

出雲市が昭和60年に策定した「快適環境整備計画（アメニティ・タウン計画）」に基づき、快適環境づくりを目指して、自然や環境資源を加えた幅広い環境資源を、官民が一体となってまとめたものです。

本書は、自然・景観資源と歴史・人文資源の2つに区分し、市内16地区ごとにさまざまな資源を細かく紹介したガイドブックです。

郷土理解と市民意識の向上を目指し、アメニティ・タウンづくりを推進するうえで、意義のある一冊です。

●いづもしげめいこう

出雲市地名考 上・下巻

著者名 永田滋史 発行者 出雲市教育委員会
出版年 昭和63年(1988)

歴
写



出雲市の誕生と「いづも」の語源や、市内16地区の地名、地名をめぐるさまざまな話題などについてまとめた一冊です。

本書は、市内16地区ごとに、地区の地名の変遷、地名の由来、地区内の町・村の変遷一覧、地名地図で構成され、各所に関わりの深い人物や文献についてのミニガイドを付けています。

また、写真や図表、地図を満載するほか、地名にはふりがながふられ、さらに巻末には補註として、難読の地名、同名の分布、地名の語源が掲載されています。

なお本書は、出雲市民文庫第3巻・第4巻として発刊されたものです。

●めでみるいづもうんなんこんじゃくしゃしんちょう

目で見る出雲・雲南今昔写真帖

発行者 郡土出版社
出版年 平成16年(2004)

写
歴

本書は、出雲と雲南の移り変わりを、昭和20年から昭和40年頃の写真で捉えた地域誌です。

移り行く地域の姿を、「変貌する風景」、「思い出の駅と乗り物」、「ふるさとを結ぶ橋」、「変わりゆく町並み」、「暮らしのなかで」、「歴史をうつす建造物」、「懐かしの学び舎」の7項目にわけて、今と昔の写真(解説つき)で対比しています。また、大型本のため、写真が大きく見やすくなっていますので、高齢者にもやさしく懐かしい写真集です。

●いづもしないじんじゃし

出雲市内神社誌

著者名 藪信男 発行者 出雲市教育委員会
出版年 昭和62年(1987)

哲

市内に鎮座する61神社について、全てを巡拝したうえで、『神国島根』、『式内社調査報告』などの各種文献を参考にしながらまとめた神社誌です。

本書では、市内の神社を中央部A、中央部B、北部、南部、西部の5地域に区分し、神社の鎮座地、主祭神、例祭日、由緒について列挙しています。

神社の地形図上での位置や写真、また出雲市駅を起点とした交通方法も記されていますので、神社の巡拝には重宝する一冊といえます。

なお本書は、出雲市民文庫第2巻として発刊されたものです。

●いづもしのぶんかざい

出雲市の文化財 第1集

発行者 出雲市教育委員会

出版年 昭和31年(1956)

芸

出雲市の文化財について、初めて本格的な調査を経て発刊された報告書です。

6人の調査委員が2年の現地調査を重ねてまとめた本書は、有形文化財、無形文化財、民俗資料、史蹟名勝天然記念物について、写真や図版も多く取り入れながら、その研究成果を十分凝縮した調査報告書です。戦後まもなくの刊行物とはいえ、その資料的価値は今なお衰えていない一冊です。



なお第2集は、新たに建築物や城跡、名勝なども加え、2冊で完結する体裁をとっています。

●いづもしのぶんかざい

出雲市の文化財 一絵画・彫刻・工芸品・建造物・古文書・典籍・書跡編一

発行者 出雲市教育委員会

出版年 昭和54年(1979)

芸

出雲市の有形文化財の絵画・彫刻・工芸品・建造物・古文書・典籍・書跡についてとりあげた報告書です。

本書は、昭和30年代に発刊された『出雲市の文化財』第1集、第2集にとりあげられた文化財を追跡調査し、また新たなものも付け加えて、総合的に有形文化財についてまとめた報告書です。

とりわけ、古文書と彫刻について重点的に調査がなされ、その概要を知るうえでは参考になる刊行物といえます。

●おかげしちべえとかせがわ

大槻七兵衛と高瀬川

著者名 石塚尊俊 発行者 出雲市教育委員会

出版年 昭和62年(1987)

人

歴

中学生にも読める、市民のための郷土誌シリーズとして発刊された出雲市民文庫の創刊号です。

出雲平野を開拓した郷土の偉人として市民によく知られている大槻七兵衛研究の第一人者が、新たな資料も加えながら、最新の成果を盛り込んだ精度の高い研究書です。

これまでの、私財を投げ打って出雲平野の開拓に尽くした大梶七兵衛像を見直し、大きく松江藩の開拓史という視点から検討されています。

現時点では、大梶七兵衛研究では最も優れた著作といえます。

●いざものにじ

出雲の虹

著者名 村尾靖子

発行者 岩崎書店

出版年 平成14年（2002）

人歴

69歳でその生涯を終えるまで、高瀬川や十間川の開削による出雲平野の開拓などに大きな業績のあった大梶七兵衛について書かれた児童書です。

これまでに発表されている研究成果や資料などをもとに、史実を参考にして創作し、300年を経てもなお語り続けられる翁の志を描き出しています。

なお本書は、小説、児童文学、漫画の3部作のうちの児童文学として出版されたものです。

●かつべかんいち（きらく）

勝部貫一（其楽）

著者名 半田礼子 米山美保子

発行者 出雲市

出版年 平成14年（2002）

人歴

勝部貫一（号名は其楽）は今市に生まれ、伊藤宜堂の有隣塾に学び、さらに長崎で勉学に励みました。そしてイギリス留学ののち帰郷し、大津大曲で私塾「包蒙館」を開き、英語、算数などの教育を施して子弟の育成に努めました。

本書は、出雲の英語教育の先駆者、勝部貫一が生まれた頃から、帰郷して包蒙館を設立し、やがて西楽寺に葬られるまでの力強く生き抜いた一生をたどった伝記で、写真や図表、史料を駆使しながら、わかりやすく綴られています。

また巻末には、包蒙館の敷地建物の略面や碑文などが付記されています。

なお本書は、出雲市民文庫第18巻として発刊されたものです。

●いざのみかくさんぽ

出雲の味覚散歩

著者名 奥井正之

発行者 出雲新聞社

出版年 平成6年（1994）

技

本書は、素朴な田舎の暮らしのなかにあった、忘れ去るには惜しい食文化を記録にとどめたいとの思いからまとめられた一冊です。

みちくさ文化を提唱する著者が、身近な食材や食事法のあり方について、民俗学的視点も交えながらわかりやすく綴っていますので、本書にはどこか懐かしい郷土の味が感じられます。

また、語られた100余話に添えられた1カットずつの挿絵は、ほのぼのとした情感が漂い、本文に彩りを添えています。

なお本書は、出雲新聞に「ふるさと味覚散歩」（平成4年10月17日～平成5年2月23日）として連載したものを収録しています。

今市地区

●いづもいまいちちょうし

出雲今市町誌

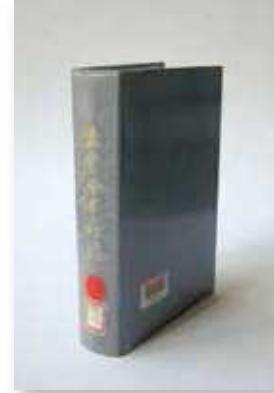
著者名 出雲今市町誌編集委員会 編

発行者 出雲今市町誌刊行委員会 **出版年** 平成5年（1993）

歴

明るいまちづくり運動の一環として、また昭和から平成への改元を記念して発刊された郷土誌です。

『出雲今市誌』（大正5年刊）以来の体系的な郷土誌で、特に第2章の「自治」にみられるように、公民館、自治協会、体育協会などの諸団体について詳述し、また巻頭カラーのほとんどを町民、区民体育祭に割くなど、まさに今市町民のための郷土誌といえます。



さらに、第8編の「今市よもやま話」では、身近でありながらあまり知られていない話題も多く収集・編さんされており、『出雲今市誌』とともに後世に永く伝えられる文献です。

●いづもいまいちし

出雲今市誌

発行者 荘田吉四郎

出版年 大正5年（1916）

歴

大正初期における今市の現況を知るうえで、貴重な郷土誌です。

今市の沿革をはじめ、社寺、教育、経済、交通、衛生、名所旧跡など、全般にわたって体系的に記載され、さらには今では見ることのできない、巻頭の今市全景写真をはじめ、懐かしい写真も満載されています。

また巻末には、70頁にも及ぶ広告もあり、当時の産業を知るうえでも参考になります。

●きたほんまちのあゆみ

北本町のあゆみ

著者名 記念誌刊行委員会 編

発行者 北本町連合町内会

出版年 平成13年（2001）

歴

市の都市計画事業によって、昭和40年に成立した北本町の35周年記念誌です。

各地から移住された人たちの親睦を深めるために結成された北本町連合町内会も30周年を迎えたことから、連合町内会の誕生・生い立ちからその歩みなどを小冊子としてまとめたものです。

内容は、写真や図表を多用して、読みやすい誌面となっています。

●いまいちこんじゃくまちじょう

今市今昔町事情

発行者 今市町自治協会 今市コミュニティセンター

出版年 平成17年（2005）

歴



出雲市制最終年記念事業として発刊された郷土誌です。コミュニティセンター文化部が平成9年から継続して発行している「文化部報」を中心に、「街並み」、「生活」、「文化」、「商工業・交通」の4項目にわけ、懐かしい写真も交えながら、大正から昭和の今市の姿を集大成したものです。

『出雲今市町誌』（平成5年刊）に載せることのできなかったこぼれ話や裏話にあふれ、また「今市の神社」、「今市マップ」などの特集も盛り込みながら、郷土今市のすばらしさを実感できる一冊です。

大津地区

●いづもしょおおつちょうし

出雲市大津町史

著者名 石塚尊俊 編

発行者 大津町史刊行委員会 出版年 平成5年（1993）

歴



大津公民館新築記念事業として発刊された、大津地区ではじめての本格的な郷土誌です。

本書の編集には、郷土史研究の権威、石塚尊俊の精緻で精力的な研究成果が十分に盛り込まれ、森広厚造を中心とする地元調査員の協力を得ながら、地方の郷土誌としては他に類を見ない優れた内容になっています。また、資料編として、主要文献解説や本文索引が設けられるなど、読者にやさしい編集にもなっています。

大局的な歴史の流れのなかでの地域史の観点から大津町をとらえた本書は、今後に発刊する出雲の郷土誌を考えるうえで、大いに参考になります。

●いづもおおつようぎょうし

出雲大津窯業誌

発行者 永田鉄雄

出版年 平成2年（1990）

芸

忘れられつつある大津窯業を、技術面、生産活動面はもとより文化的な側面などの広い視点から探し、その歴史をまとめた産業誌です。

個々の窯元の歴史を明らかにすることが、出雲大津窯業の歴史をより深く理解することができる、との著者の考え方から、廃業した窯元の関係者や子孫にも何度も足を運び、多くの写真などの資料の提供受けて出版された意義のある著作です。

大津の近世から近代の産業史を考えるうえで欠かせない大津窯業に光をあてたはじめての労作といえます。

●かんだしばし いづものさとにかくるめいきょう

神立橋 出雲の郷に架かる名橋

発行者 永田鉄雄

出版年 昭和63年（1988）

技

神立橋が完成して満50年にあたり、当時若い技術者として建設にかかわった著者の、熱い思いが込められた一冊です。

本書は、簗子橋から永久橋までの神立橋の歴史をたどるとともに、当時県内最長の永久橋となる神立橋の設計や工事について、わかりにくい専門的な技術面を、写真や図を多用して、わかりやすく解説しています。また、神話の舞台ともなったこの地域のもつ文化性にも着目し、神立橋周辺の神社や古代遺跡にも触れながら、神話の国出雲の郷のシンボルとして守り育てたい橋として、郷土への愛着が感じられる好著といえます。

塩治地区

●いづもえんやし

出雲塩治誌

著者名 出雲塩治誌編集委員会 編

発行者 出雲塩治誌刊行委員会 出版年 平成21年（2009）

歴



合併による新出雲市誕生を契機に編集、刊行された塩治地区待望の本格的な郷土誌です。

昭和16年刊の『塩治村誌』から70年ぶりに発刊された本書は、塩治史談会や、塩治クラブ文化部などの資料収集の積極的な協力のもとに、近年の学術成果も十分に取り入れて執筆、編集された1,000頁を超える大著です。また、第2編と第3編では、主文のあとに補説を立て、幅広い情報を提供するとともに、多くの地区民が編集に係った成果を反映させた新しい試みの優れた一冊といえます。

●えんやそんし

塩治村誌

発行者 島根県簸川郡塩治村

出版年 昭和16年（1941）

歴

出雲町合併に伴う塩治村解村記念として発刊された塩治でははじめての体系的にまとめられた郷土誌です。

本書は、「塩治村の歴史」にはじまり、「自然」、「土地」、「戸口」、「産業」、「金融」、「交通」、「自治」、「教育」、「兵事」、「衛生」、「警防・警察」、「伝説」、「塩治村解消・出雲町誕生の経過概要」など17章にわたり、塩治小学校職員が分担して執筆したものです。

●えんやしだん

塩治史談

著者名 秦敬藏

発行者 塩治公民館

出版年 昭和42年（1967）

歴

秦敬藏が明治年間に執筆し、秦家に秘蔵されていた原稿をもとに、複写製本したものです。神代からはじめて、上古、中古ノ上、中古ノ下、近古、近世の塩治の歴史をたどっています。塩治ではじめての地域史として、意義深い著作といえます。

●えんやきゅうき

塩治旧記

著者名 秦清一

発行者 塩治公民館

出版年 昭和45年（1970）

歴

昭和9年に執筆された著者の『塩治旧記草稿』を書き写して製本したものです。

父である秦敬藏が明治年間に著した『塩治史談』をもとに、古文書、県史などを参考にしながら書き上げたもので、『塩治史談』のような神代から近世までの章立てはせずに、塩治にかかわるさまざまな事象を羅列してとりあげています。なお、『塩治旧記草稿』は、自筆原稿をそのまま複写したものを出雲中央図書館に所蔵しています。

●えんやものがたり

えんや物語 合冊本

発行者 塩治コミュニティセンター文化部

出版年 平成16年（2004）

歴

「えんや物語」の第1号から第20号までを、一冊に合本したものです。

「えんや物語」は、A3判1枚に、ふるさとの自然景観や歴史などを題材にして年4回発行し、各家庭に配布されました。

平成8～9年度にわたる「成人大学地域講座」を受けて、平成10年度から「えんや物語」を発行し、延べ66人が原稿にかかわっています。

●しゃしんしゅうえんやこんじやく

写真集塩治今昔

著者名 塩治クラブ写真委員会 編

発行者 塩治クラブ 出版年 昭和61年（1986）

写 歴

塩治地区の有志で組織された塩治クラブの会員が手づくりで編集した写真集です。

巻頭には昭和60年の塩治地区をカラー航空写真12枚で配し、90ページまでは塩治の今昔をたどった懐かしいモノクロ写真で編集されています。

また、巻末には「塩治略史」として、弥生時代から江戸時代までの主なできごとや地域の見所が解説されています。

●えんやはんがんたかさだ

塩治判官高貞

著者名 藤岡大拙 発行者 出雲市教育委員会

出版年 昭和63年（1988）

人 歴

鎌倉末期から南北朝初期の乱世を力強く生き抜いた塩治判官高貞について、一般の人にもわかりやすく物語風にまとめられた本書は、中世史の専門家である著者による最新の研究成果を盛り込んだ、塩治判官高貞の実像に迫る待望の好著といえます。

本書では、塩治判官高貞のみならず、高貞死後の塩治氏（後塩治氏）にも触れるとともに、巻末史料として、塩治判官高貞関連の古文書28点が掲載しております。

なお本書は、出雲市民文庫第5巻として発刊されたものです。

古志地区

●こしちょうし

古志町誌

著者名 出雲市古志町誌編纂委員会 編

発行者 出雲市古志町誌刊行委員会

出版年 平成2年（1990）

歴

古志クラブの特別委員会としての古志町誌編纂委員会によって、出雲市まちづくり補助事業の一環として発刊されたものです。

古志地区でははじめて体系化された郷土誌で、第1編「自然・概観」から第11編「資料」で構成され、項目別に写真、図表を交えて詳述しています。

中世の古志氏、神戸川治水など大きな流れのなかで、古志のたどったこの地域ならではの変貌の歴史を知るうえで格好の一冊です。

●こしそんし

古志村史

発行者 浜村台次郎

出版年 昭和26年（1951）

歴

神門村誌、神西村史も手がけた、浜村台次郎の古志村史の自筆原稿を複写・製本したものです。神代・上古からはじめて、出雲市へ合併するまでの古志の歴史をはじめてまとめた基本的な著作です。手書き原稿のため読みづらいですが、平成4年には同書をワープロ編集したものが古志公民館から発行されています。

●こしこんじやくものがたり

古志今昔物語

発行者 古志史探会

出版年 平成14年（2002）

歴

公民館の文化活動サークルである古志史探会が、地道な活動のなかで精力的に編集し、郷土古志を理解してもらうために町内全戸に配布された冊子です。

上新宮など7つの町ごとに、成り立ちや伝統行事など、語り継がれてきたことを聞き書きしてまとめたもので、地名を現在の地形図に落とした「今昔地名考」は、古い地名が消えつつある昨今、意義深いものといえます。

また本書は、『古志の歴史I 祇園神社の由来恵比寿神社縁起と歴史』、『出雲古志氏の歴史とその性格』に続く、古志史探会の『古志の歴史III』として発刊されました。

●しゃしんしゅうこし

写真集古志

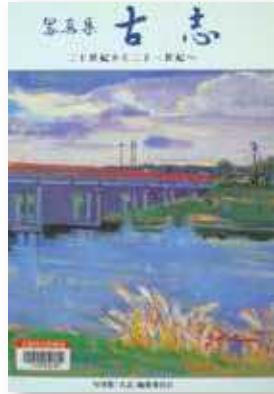
発行者 写真集「古志」編纂委員会
出版年 平成13年（2001）

写 歴

斐伊川・神戸川治水事業によって急速に変わり行く古志の姿を、記録として後世に伝えるために発刊された写真集です。

写真は、編集委員が撮影したものを中心に、公民館に保存されていたものや古志フォトクラブ会員の協力を得て幅広く集められています。

地域の変化を、「地域の事業」、「町づくり」、「町のすがた」、「古志夏祭りフォトコンテスト」の項目に分けて写真でたどり、巻末には略年表を付して平成8年から平成13年4月までの古志の動きを全国の動きと対比させています。



●いづもこじしのれきしとそのせいかく

出雲古志氏の歴史とその性格

著者名 長谷川博史

発行者 出雲市古志公民館 古志史探会
出版年 平成11年（1999）

歴

古志公民館の「自主企画特別事業」として発刊された、中世の古志氏に関する史料集です。

古志氏に関する関係資料として、中世文書54点と参考資料2点について年代順に配列し、それぞれについて本文・訓読・解釈・解説が付されています。

また総論として、「出雲古志氏の歴史とその性格」の小論文が巻頭にあります。

さらに、この編集過程において交流のあった古志氏末裔の方から古文書が出雲市に寄贈されました。

高松地区

●きょうどしいすもたかまつ

郷土誌いすも高松

著者名 郷土誌いすも高松編集委員会 編
発行者 郷土誌いすも高松刊行委員会
出版年 平成元年（1989）

歴

高松村が閉村し、9町村が合併して出雲町が誕生した昭和16年から昭和63年3月までを対象として編集した郷土誌です。

第1編「高松村の沿革」から第8編「高松人物誌」まで、旧村誌発刊以降の主要事項を多くの写真や図表を交えて集大成された郷土誌で、神戸川流路の変遷など、新しい試みも盛り込まれています。

なお余録として、巻末に各種統計や、高松地区年表などが付いています。

●しまねけんひかわぐんたかまつそんし

島根県簸川郡高松村誌

発行者 出雲町役場
出版年 昭和16年（1941）

歴

昭和16年、出雲町制施行による高松村解村記念に、出雲町が発刊したものです。

全体は4編からなり、第1編は簸川平野の成立から昭和16年の合併までの高松村の歴史を継ぎ、第2編で官署・諸団体、第3編に村治功労者、第4編は戸数と人口、神社・宗教、教育、通信・交通などの現状について記されています。

また巻頭には、当時の高松村役場や高松村尋常高等小学校などの古い写真が掲載されています。なお、昭和56年には、高松クラブが同書を復刻しています。

●きょうどししもよこ

郷土誌下横

発行者 下横親和会
出版年 平成8年（1996）

歴

親和会の文化事業として、戦後50年の節目に発刊された地域誌です。

発行者である親和会の沿革・組織・規約をはじめ、郷土下横の産業、福祉、消防、体育の変遷、宗教、美術・芸能、先人の偉業について、地域の実態が詳しくまとめられています。なお、余録として、新旧の道水路網図と住宅分布図が掲載され、下横の発展を見ることができます。

●はまやまといのうええすけ すなどのたたかい

浜山と井上恵助 砂との闘い

発行者 井上恵助翁研究会
出版年 平成17年（2005）

人

歴

2市4町合併前の出雲市制最終年の記念事業、また恵助没後210年の記念すべき年に、郷土の偉人を讃えた伝記として発刊したものです。

これまで、断片的な伝記はありましたでしたが、まとめた本がなかったなかで、「井上恵助翁研究会」を発足させ、多くの編集委員が資料収集し、分担執筆した著作です。

漢字にはできる限りルビをふり、わかりやすい文章で、大人のみならず地域の子どもにも読みやすい読み物として編集された待望の一冊といえます。

四絡地区

●よつがねきょうどし

四絡郷土誌

著者名 四絡郷土誌編集委員会 編

発行者 四絡郷土誌刊行委員会

出版年 昭和61年（1986）

歴

明治22年の四纏村（昭和16年から四絡と表記）誕生以来、四絡ではじめての郷土誌です。沿革として、地名考からはじまり、古代から近代の四絡を概観してから、「行政」、「産業・経済」、「交通・通信」、「厚生」、「教育・文化」、「宗教」、「庶民生活」、「旧跡探訪」の各編を記載した体系的な郷土誌です。また編外として、「築地松考」を掲載し、観音寺の築地林と太田家の三面樹林を紹介するほか、昭和初期の古地図復元に取り組むなど、後世に語り継ぐための精力的な取り組みもみられます。

●わたりはしちょうこんじやくしゃしんしゅう

渡橋町今昔写真集

著者名 渡橋町今昔写真集編集委員会 編

発行者 渡橋地区自治協会 出版年 平成12年（2000） 写 歴

公民館自主企画特別事業として、発刊した渡橋地区の写真集です。急速な市街地化が進む渡橋地区の移り変わりを、地区民から提供された懐かしい昭和の写真を中心にして、「発展する渡橋町」、「社会一般」、「風俗・風習」、「農業」、「土地改良」などの10項目にわけて編集されています。なお、明治6年の「神門郡渡橋村絵図面」（広島大学図書館所蔵）や、明治9年の「神門郡渡橋村道水路敷絵図面」（出雲市役所所蔵）など、貴重な資料が添えられていて、価値のある写真集となっています。



●わたしたちのよつがね

わたしたちの四絡

発行者 四絡小学校郷土学習編集委員会

出版年 平成8年（1996） 歴

環境の変化の著しい四絡地区の自然、歴史、文化などを探し、ふるさとについて考える手がかりとして、四絡小学校の先生方が3年がかりで作成したものです。

出雲市教育委員会が社会科の資料として市内の小学3年生に配布している『わたしたちの出雲市』の四絡版といえるもので、本書は、「四絡探検」、「昔をたずねてみよう」、「これから」の3つの大きな項目にわけ、多くの文献を参考にしながら、わかりやすく密度の濃い内容に仕上げられています。

●いざもへいやのかいたく みきよへえのいぎよう

出雲平野の開拓 三木与兵衛の偉業

発行者 小山町郷土史研究会
出版年 平成4年（1992）

人 歴

ひしね
菱根池周辺を開拓して新田を開発した、郷土四絡の偉人、三木与兵衛翁についてのはじめてのまとめた伝記です。

石塚尊俊の「三木家と出雲平野の開拓」、上野良一の「菱根新田の開拓について」の2つの研究を柱に、資料編として三木家文書や三木氏系図も掲載されています。

また、巻頭に、三木与兵衛の肖像画や三木家の現況、墓地の写真、巻末には、菱根地方開拓関係年表をのせ、三木翁の功績を顕彰しています。

●ぎみんばんだいじゅうべえでん

義民万代重兵衛伝

著者名 梶谷孝雄 編

発行者 矢野町青年会

出版年 平成2年（1990）

人 歴

「出雲市まちづくり推進事業」の一環として発刊した郷土四絡の偉人伝です。

天和2年（1682）、29歳の若さで刑場の露と消えた、義民、青年庄屋万代重兵衛の生涯と人間像をわかりやすく物語風に描いた伝記です。

また、重兵衛地蔵や重兵衛事件の考察、史料などについても記載され、総合的な研究書にもなっています。

さらに、資料収集の中心になった矢野町青年会のあゆみや青年会名簿を掲載するほか、巻末には、重兵衛伝資料附属年表をつけています。

高浜地区

●きょうどしたかはま

郷土誌高浜

著者名 郷土誌高浜編集委員会 編

発行者 郷土誌高浜運営委員会

出版年 平成5年（1993）

歴

大正13年発刊の旧村誌から70年の歳月がたち、郷土誌作成の機運が盛り上がってきたことから、出雲市制50周年の記念すべき年に、新たに郷土誌を発刊したものです。

旧村誌が欠いていた原始・古代以来の歴史的沿革を新たに書き加えたほか、行政、産業・経済、教育と文化、庶民生活の各分野についても、地区を巡回して新たな資料の提供を受けたりしながら、地区民に読んでいただけるものをめざして編集されています。

●ひかわぐんたかはまそんし

簸川郡高浜村誌

発行者 高浜村

出版年 大正13年（1924）

歴

東宮殿下御成婚記念として発刊された高浜地区ではじめての郷土誌です。巻頭に、郷土の偉人、山崎夫八郎翁像の写真をかけ、高浜の風土、産業、教育、神社、寺院などを記しています。とりわけ、郷土の偉人篤行者については多くのページを割いているのが特色といえます。また、巻末には附録として、皇太子殿下御成婚記念事業について記されています。

●きたやまのさとたかはま

北山の郷高浜

発行者 出雲市政最終年記念事業委員会
出版年 平成17年（2005）

写歴

出雲市制最終年記念事業のひとつとして発刊された郷土の写真集です。

地区民から提供された900枚の写真や高浜小学校で大切に保存されていた資料をもとに、写真同好会の協力を得ながら、整理・編集した写真集です。

昭和初期から現代に至るまでの写真を、「古代ロマン」、「先人の偉業」、「名誉市民」、「懐かしの日々」など12項目にわけて編集されていますので、古いモノクロの写真や新しいカラー写真が入り交じり、高浜の80年に及ぶ地域のあゆみをたどることができます。

●じよりゅうめいじんくらしきとうかさとみかな すきなみちならたのしくあるけ

女流名人倉敷藤花里見香奈 好きな道なら楽しく歩け

著者名 里見香奈

発行者 双葉社 出版年 平成22年（2010）

人芸

出雲市生まれの日本将棋連盟所属女流棋士、里見香奈の、将棋に出会ってからユニアーチャル杯第36期女流名人位戦に勝利するまでを辿った一冊です。

本書は、プロ棋士をめざす著者が、家族やこれまで出会った友人、恩師などについてのエピソードを綴るほか、16歳で倉敷藤花、17歳で女流名人のタイトルを獲得するまでが描かれています。特に、女流名人位戦については、第1局から第3局までの対局について回想とともに、対局ごとの著者との対談による森九段の解説をつけているので、臨場感のある冊子となっています。

川跡地区

●きょうどしかわと

郷土誌川跡

著者名 郷土誌川跡編纂委員会 編

発行者 郷土誌川跡刊行委員会

出版年 平成3年（1991）

歴

川跡ではじめて編さんされた郷土誌です。

当初は、川跡村誕生100周年記念事業として計画されましたが、編集が難渋したために発刊が遅れ、川跡公民館移転新築10周年の年に発刊されました。

「川跡村の誕生」をはじめ、「教育」、「産業」、「交通・通信」、「治安・保健」、「神社・寺院」、「生存者叙勲・褒章・市長表彰」、「人物」の各編に、近年高い人口増加率で発展する川跡地区の姿を見ることができます。

また「第十編 その他」では、「年中行事」とともに、郷土誌として取り上げることは稀な「出雲方言」についても言及し、いろは順に一覧表としてまとめられています。

●にしやますなほ きょうどかわとがうんだきんだいいがくのせんかくしゃ

西山砂保郷土川跡が生んだ近代医学の先覚者

著者名 川跡公民館事業実施委員会 編

発行者 出雲市川跡公民館

出版年 平成10年（1998）

人

歴

川跡公民館が自主企画事業として発刊した顕彰誌です。

西山砂保は、天明元年（1781）に荻原村（現荻原町）で生まれ、華岡青洲、シーボルトに学んだのち帰郷し、出雲に近代医学を伝えました。

その功績は大きく、出雲ロータリークラブでも創立40周年記念事業として『西山砂保ものがたり絵本』を発行し、市内小学校・中学校・高等学校などに贈呈しています。

鳴巣地区

●ふるさとびすものがたり

ふるさと鳴巣物語

著者名 鳴巣郷土誌編集委員会 編

発行者 鳴巣自治協会

出版年 平成17年（2005）

歴

はじめて体系化、集大成された地区民待望の郷土誌で、出雲市制最終年記念として発刊されたものです。

故人となった園山泰助、原重夫両氏の「くずかご文庫」、「鳴巣史談会」の資料をきっかけとして編集され、伝えたい・残したい「伝説・民話」、「民間信仰」、「明治・大正・昭和の人々の暮らし」、「年中行事」、「共同体」など、後世に語り継ぐにふさわしい内容を盛り込んだ構成になっています。また、全国的に注目された青木遺跡についても、「第5章 青木遺跡が語るもの」として、島根県埋蔵文化財調査センターの協力を得て、専門家の論文を掲載し、古代から開けた鳴巣の輝かしい遺産を紹介しています。

●とびす（ひがし・にしほやしきちょう）ふるさとのれきし

とびす（東・西林木町）ふるさとの歴史

発行者 原重夫

出版年 平成2年（1990）

歴

平成元年発刊の『郷土（林木）の歴史』所収の「林木に鎮座します神々」、「大寺薬師由緒に関する研究」に、新たに「林木の諸寺院」、「古代遺跡と古墳」を加え上巻とし、さらに、下巻では「林木荘と御所さん」、「鳴ヶ巣城の歴史」など18項目が収められています。

本書は和綴の体裁をとり、上巻と下巻をあわせた合本として編集されました。著者の深い見識と、郷土への熱い情熱が感じられる一冊といえます。

●きょうど（はやしき）のれきし

郷土（林木）の歴史

発行者 原重夫

出版年 昭和61年（1986）

歴

昭和60年に結成された「鳴巣史談会」の例会で発表した討議資料の一部をまとめた手書き原稿の私家本です。

「林木に鎮座します神々」、「大寺薬師由緒の研究」、「林木の荘と御所さん」「鳴ヶ巣城の歴史」、「林木に關係の深い斐伊川の歴史」の五つのテーマについて、著者独自の視点か

ら、深い考証と見識でまとめあげています。林木について地道に細かく調べ上げたはじめての刊行物として、林木の歴史を知るうえで貴重な一冊です。

上津地区

●かみつきょうどし

上津郷土誌

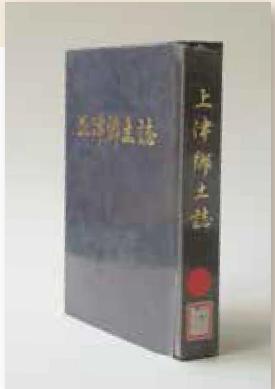
著者名 上津郷土誌編纂委員会 編

発行者 上津地区自治会 出版年 平成5年（1993）

歴

明治22年に、上島村と船津村が合併して上津が誕生して100周年の記念事業として出版した郷土誌です。

昭和30年に発刊した『上津村誌』に記載されなかつたことや、上津小学校移転新築や県営圃場整備事業などの合併以後の事業記録を主体に編集されています。「斐伊川治水と自然災害」など、斐伊川の流れと深くかかわり、共存してきた地域ならではの項目がとりあげられているのが本書の特色です。



●かみつそんし

上津村史

著者名 上津村史編纂委員会 編

発行者 上津村役場 出版年 昭和31年（1956）

歴

昭和30年の出雲市との合併による上津解村を記念して発刊したものです。

村史は、概観からはじまり、近代までの沿革を記したのち、「産業経済」、「社会」、「衣・食・住」、「報道と通信」、「芸術」、「宗教」の各分野について記載しているもので、上津を知るうえでははじめての体系的な刊行物です。

なお第7編を雑編として、各戸別の家系調や廃屋調などの貴重な資料を付けています。

●かみつにじっせいのかたりごと

上津20世紀の語りごと

著者名 上津20世紀の語りごと編集委員会 編

発行者 上津地区自治協会 出雲市上津公民館

出版年 平成13年（2001）

歴

ふるさと上津の貴重な文化や歴史を次世代に引き継ぐため、公民館移転改築15周年記念事業のひとつとして、編集、発刊されました。

20世紀の暮らしにかかわる地区民の貴重な体験やさまざまな思い出を、写真を交えながら綴った語りごととして、「くらしの今昔」、「忘れ得ぬ災害」、「戦時下の暮らしと戦後」、「生産活動」、「子どものころ」、「追憶」、「思い出の記録」の7章に分けて編集するほか、記録資料として「葬式のしきたり」が紹介されています。

稗原地区

●ひえらきょうどし

稗原郷土史

著者名 稗原郷土史編集委員会 編

発行者 稗原自治協会 出版年 昭和60年（1985）

歴

明治100年を記念して、郷土稗原の100年史として刊行したものです。

『稗原村史』（昭和4年刊）から50年ぶりの郷土史ですが、明治期以降を対象として、「政治経済一般」、「教育と文化」、「生活」の各項目ごとにそれぞれ移り変わりを記しています。

また、「第5編 機関と団体」では、地区内の数多くの諸団体を網羅し、古い写真も交えながら紹介しています。なお巻末には「稗原郷土史略年表」を付け、国・県の歴史と稗原の歴史を対比させています。

●ひえらそんし

稗原村史

発行者 稗原村役場

出版年 昭和4年（1929）

歴

稗原ではじめてまとめられた村史で、謄写印刷されたものです。

稗原の歴史のなかでも、稗原の地名がはじめて文献にあらわれた「稗原里と加夜里」、奈良時代に烽があり、中世に古志氏の居城のあった戸倉について特記しているほか、主要な神社仏閣についても記しています。

また、「第8章其の他」として、「鬼の穴と岩倉渓」、「稗原の殿倉」「本村功労者」などを雑記しています。

●しゃしんでつづるひえらひやくねんのれきし

写真で綴る稗原100年の歴史

発行者 稗原コミュニティセンター

出版年 平成15年（2003）

写

歴

稗原コミュニティスクール10周年を記念して発刊したものです。

コミュニティスクールの竣工記念に地区から寄せられた写真や、写真愛好家に依頼して写した写真を中心にして編さんされた写真集です。明治、大正、昭和、平成の各時代ごとに、時代を象徴するできごとを写真で綴り、文化と伝統ある稗原の歴史を回顧できる一冊です。

●しあさやまごうとひえらのさと

史誌朝山郷と稗原里

発行者 曽田義文

出版年 大正13年（1924）

歴

幼い頃に見聞した生まれ故郷の事跡を思いつくままにまとめた、謄写印刷の私家本です。

神代から大正時代までを時代順に、140の小項目にわけて、古文献を参照しながら検証しています。稗原について記したはじめての文献として、『稗原村史』（昭和4年刊）発刊の機運を醸成した著作といえます。

●いちもりきょうどし

市森郷土誌

著者名 市森郷土誌編纂委員会 編

発行者 市森自治会 出版年 平成6年（1994）

歴

学校をはじめ、稗原の主要機関が集中する市森地区の郷土誌です。県道バイパスや稗原コミュニティスクールが完成するなど、大きく地域が変わりつつある激動の時期に編さんされた本書は、あえて近世以前の歴史には触れずに、近代以降について、「産業経済」、「交通運輸」などの項目別に記載され、巻末の「市森自治会年表」も明治元年から平成元年までの編年になっています。なお巻末には、ユニークな市森門名地図や、江戸時代の天明元年から平成2年までのおよそ200年間の米一俵の価格表が記されています。

朝山地区

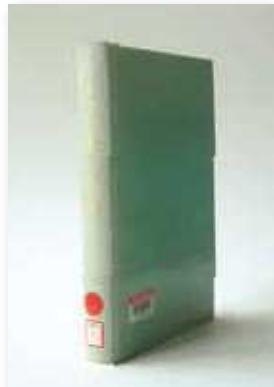
●きょうどしあさやまむら

郷土誌朝山村

著者名 奥井正之 編

発行者 朝山地区自治協会 出版年 平成17年（2005）

歴



合併に際しての出雲市制最終年記念事業として、『朝山村史』以来半世紀ぶりに出版された朝山地区の郷土誌です。

本書は、『朝山村史』ではほとんど触れられていない近世までの歴史を大幅に増訂しているほか、新たに「近代」、「現代」の項目を設けて、朝山の沿革を充実させています。また、各分野の個別項目としても、衣・食・住、人の一生、年中行事を収めた「生活」や「機関と団体」の項目を取り入れるなど、そこに生活している住民の視点で編集し、集大成されたものになっています。

●あさやまそんし

朝山村史

著者名 花田亀麿 編

発行者 朝山村役場 出版年 昭和25年（1950）

歴

乙立村との合併直前の朝山村について、体系的にまとめた村史です。

内容は、上篇、下篇、付録から成り、上篇には太古以来の朝山の歴史を、太古、上古、中古、近古にわけて記載しています。下篇には、明治以降の行政、教育文化、産業、交通、河川溝渠、水火災を分野別に詳述しています。

● こころのふるさとかみあさやま

心のふるさと上朝山

著者名 藪信男 永田滋史 編

発行者 朝山町自治会

出版年 昭和62年（1987）

歴

『朝山村史』をもとに、新しい資料を調査・収集して編集したものです。

地元の協力による上朝山旧道復原図を新資料として加えたほか、巻頭には航空写真による位置図を加えるなど、わかりやすく読みやすい小冊子になっています。

● あさやまおたちがっぺいし

朝山乙立合併史

発行者 花田亀麿

出版年 昭和25年（1950）*出版年未記載

歴

本書は自筆原稿を製本したもので、昭和25年の朝山村と乙立村の合併（合併後は朝山村）にかかる合併の理由、沿革、村議会、県議会、関係者氏名、村の趨勢について記載しています。

なお、付録として、乙立村解村式の模様、朝山村合併式の模様について、全体の約半分のページを割いて詳しく記載しています。

● そんせいようらん がっぺいごう

村勢要覧 合併号

発行者 篠川郡朝山村役場

出版年 昭和28年（1953）

歴

本書は、乙立村との合併後はじめての朝山村の村勢全般についての統計要覧です。

内容構成は、朝山村の土地、気象、人口、農業・養蚕業、畜産業、財政、教育・宗教・社会・衛生、税務、選挙、消防、工業・道路・鉄道・郵便、林業、農業協同組合、森林組合、観光について、分野別に統計を記載しています。

乙立地区

● おたちきょうどうし

乙立郷土誌

著者名 乙立郷土誌編纂委員会 編

発行者 乙立自治協会 出版年 平成17年（2005）

歴

出雲市制最終年記念事業として発刊された出版物で、乙立を知るうえで最も詳細な郷土誌です。昭和25年に発刊された『乙立史』以来の体系的な刊行物で、産業・経済、交通・運輸、教育・文化などを分野別に詳述しています。なかでも、「立久恵の山」、「神戸川」などの項目は、地域の特性をよく表した編集といえます。

また、地区内の公共機関や諸団体を網羅的に掲載しているのも本書の特色といえます。

なお、巻末には資料として、江戸末期の慶応3年（1867）から平成17年までの乙立郷土誌略年表を載せています。

●ふるさとくほん

ふるさと読本

著者名 今岡美友 編

発行者 出雲市乙立公民館

出版年 昭和55年(1980)

歴

公民館の婦人学級のテキストなどで郷土について書き留めていたものをまとめたものです。

「神戸川」、「交通のうつりかわり」、「むらの変遷」、「立久恵」、「むかしの仕事」など、郷土乙立のさまざまな出来事を細かく取り上げた本書は、続編の『ふるさと物語』(昭和57年刊)とともに、失われつつある乙立の歴史の記憶を、記録として残した貴重な著作です。

●ふるさとものがたり

ふるさと物語

著者名 今岡美友

発行者 乙立公民館

出版年 昭和57年(1982)

歴

『ふるさと読本』の続篇として出版された刊行物です。乙立地区内の7地域の地名の由来、名勝などを、ふるさとめぐりとして紹介するほか、「立久恵に関する文芸作品」、「入会山の話」、「乙立小学校の古額」、「池田繁太郎氏伝」などの研究や、「村の伝説」、「ことわざ集」、「椰子の実物語」など、地元在住の郷土史家ならではの視点から丹念に調べ上げています。

『ふるさと読本』とともに、乙立を語るうえで欠くことのできない貴重な著作です。

●おったちし

乙立史

発行者 花田亀麿

出版年 昭和25年(1950)

歴

朝山村との合併前の乙立村の村史で、はじめてのまとまった内容をもち、第1編に「上古・中古・近古」、第2編に「明治以後」、第3編に「教育文化」、「産業」、「交通」、「河川溝渠」、「水火災」、「名所伝説」に分けて記載しています。なお、附録には相当数のページを割き、職員及び議員録、家系譜、懐旧談をのせています。

また、村史とはいえ、出雲鉄道唱歌(32番)を披露するなど、自費出版ならではのユニークな一面も持ちあわせています。

●おったちめいじひやくねんし

乙立明治百年史 上巻

発行者 今岡美友

出版年 昭和43年(1968)

歴

手書き原稿を複写し、自館製本した刊行物です。昭和43年が明治維新後100年にあたることから、それを記念して郷土乙立の移り変わりを記録しています。昭和25年発刊の『乙立史』が分野ごとの編集になっているのと異なり、上巻を総括篇として明治維新前の乙立村から筆を起こし、明治以後の変遷について、昭和43年までを暦年でさらに詳しくまとめています。

あとがきに、下巻は産業経済、教育文化、衣食住、交通、生活の変遷等に分けて綴りたいとの考えで準備がなされていましたが、未刊となっています。

神門地区

●きょうどしかんど

郷土誌神門

著者名 郷土誌神門編集委員会 編

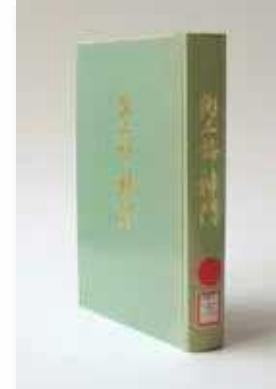
発行者 郷土誌神門刊行委員会 出版年 平成9年（1997）

歴

本書は、神門クラブ設立10周年記念事業として発刊されました。

『神門村誌』以来、40年ぶりの体系的にまとめた郷土誌で、昭和18年の神門村合併以降の神門地区の発展について、重点的に編さんされています。

また、「神門の沿革」以降の第4編からは産業、教育等の個別項目として編集されていますが、第7編以降の「神門今昔」や「神門人物誌」、「碑を訪ねて」などは神門らしさを表わすものといえます。



●かんどそんし

神門村誌

著者名 浜村台次郎 編

発行者 神門村役場

出版年 昭和31年（1956）

歴

出雲市との合併を記念して発刊された村誌です。

昭和18年に知井宮村と布智村が合併して神門村になっていることから、本書は昭和18年までの知井宮村、布智村の村史と合併後の神門村誌の3部構成となっており、神代上古代から中古代、近古代、近世代、現代（明治以後）までを時代順に記述した通史となっています。

神西地区

●しまねけんひかわぐんじんざいそんし

島根県簸川郡神西村史

発行者 浜村台次郎

出版年 昭和9年（1934）

歴

本書は、大正3年に同氏が発刊した『神西村史』以後、資料の収集に努め、その内容に、さらに改訂、増補を加えた一冊です。

巻頭に凡例をつけたり、巻末に略年表をつけるなど、郷土誌としてのスタイルに新しい試みがなされていることは注目すべきことといえます。また、本書を復刻した『新訂神西

村史』が、昭和63年に神西公民館から発行されていますが、謄写版が活字となり、さらにふりがなや注釈が加えられていますので、かなり読みやすくなっています。

●じんざいしみていこう

神西史未定稿

発行者 上野富太郎

出版年 明治38年(1905)

歴

神西の歴史について書かれた、はじめての郷土誌です。

自筆原稿もしくは写本を複写製本したもので、小野氏系図からはじめて神西氏の後裔に至るまでの中世について古文書や古文献をもとに考察していますが、未定稿とされているように、神西氏の後裔についてはほとんど触れられていません。

●じんざいそんし

神西村史

発行者 濱村臺次郎

出版年 大正3年(1914)

歴

手書き原稿を謄写印刷(数10部配布)したものを、複写製本したものです。

本書は、全体を、「王朝官治時代」、「武家知行時代」、「藩主領地時代」、「維新後自治時代」の4項目に区分して、それぞれ主な出来事を記述しています。

神西の歴史の淡白な概説書ですが、はじめての通史として意義のある著作といえます。

長浜地区

●ながはまそんし

長浜村誌

発行者 出雲市長浜支所

出版年 昭和31年(1956)

歴

昭和31年に、長浜村が出雲市に編入合併したことを記念して発刊された郷土誌です。

長浜ではじめての本格的にまとめられた郷土誌で、「歴史」、「自然」、「人口」、「生産」など11項目を、村内の小・中学校の先生が分担執筆しています。

これまでの村誌に多く見られるような通史(歴史)の偏重を改め、なるべく村の現状を重視した方針により編集されていることが特長といえます。

●じちくにびき

自治くにびき

著者名 自治くにびき編集委員会 編

発行者 長浜自治協会 出版年 平成6年(1994)

歴

出雲市制50周年の記念式典において、長浜自治協会が市民功労表彰を受けたことを記念して発刊された記念誌です。

本書は、昭和31年に長浜村が出雲市に合併したのちの自治協会の輝かしい活動の歩みを、公民館、社会福祉協議会の歩みとともに集録したものです。なお、長浜自治協会発足50周年記念として、『自治くにびき第二集』も発刊されています。

写真が語る出雲

出雲市は、古代出雲の中心地であり、古くから神話と歴史に彩られた町として、広く全国に知られています。そうした町並みや人びとの営みのそこかしこに、歴史の重みをうかがうことができます。

そうした出雲市の各地域では、その地域固有の歴史風土を映し出した、さまざまな写真集が発刊されています。その多くは、合併や新築などの記念として、そうした折に触れて出版されています。

特に、合併時には、必ずといっていいほど記念誌が企画され、その多くは懐かしい写真で移り変わりを記録した写真集が発刊されています。平成17年の2市4町の合併の時にも、旧出雲市では『市制63年の歩み』が発刊されたほか、旧湖陵町では『湖陵 明日に伝える』、旧佐田町では、『佐田町あの日あの時』が編集され、後世に語り継ぐ貴重な記録として残されています。

<出雲市(全域)>

目で見る出雲・ 雲南今昔写真帖

発行者 郷土出版社
出版年 平成16年(2004)

<出雲市(地域)>

市制63年の歩み

発行者 島根県出雲市
出版年 平成16年(2004)

写真で見る平田の歩み

発行者 平田市総務課
出版年 平成8年(1996)

佐田町あの日あの時

発行者 佐田町役場
出版年 平成17年(2005)

とき 刻を超えて 写真で綴る多伎町の歴史

発行者 多伎町役場
出版年 平成4年(1992)

湖陵 明日に伝える

発行者 湖陵町
出版年 平成17年(2005)

写真是語る大社の百年

発行者 大社町教育委員会
出版年 平成2年(1990)